

フルマラソン大会に参加する市民ランナーの実態調査

～コロナ禍前後の参加者の特徴に着目して～

環境人間学部 環境人間学科

〇准教授 森 寿仁、M2 久下 潤、M2 前田島 正哉

キーワード

市民マラソン, ランニング, トレーニング



研究概要

本研究ではフルマラソンに参加するランナーの特徴をコロナ禍前後で比較するため、2024年12月の加古川マラソン、2025年2月の姫路城マラソン、2025年3月の丹波篠山ABCマラソンの3レースでアンケート調査を実施し（以下「コロナ後」）、過去のマラソン大会（2013年度1大会、2014年度2大会、2015年度2大会）における調査結果（以下「コロナ前」）と比較した（図1）。コロナ前、コロナ後の調査対象者はそれぞれ1296名（男性：1082名、女性214名）および786名（男性：678名、女性108名）であった。対象者のパフォーマンスレベルをもとに6区分（①3時間未満、②3～3.5時間未満、③3.5～4時間未満、④4～4.5時間未満、⑤4.5～5時間未満、⑥5～6時間未満）に分けて年齢、身長、体重、BMI、マラソン出場回数、月間走行距離を比較した。

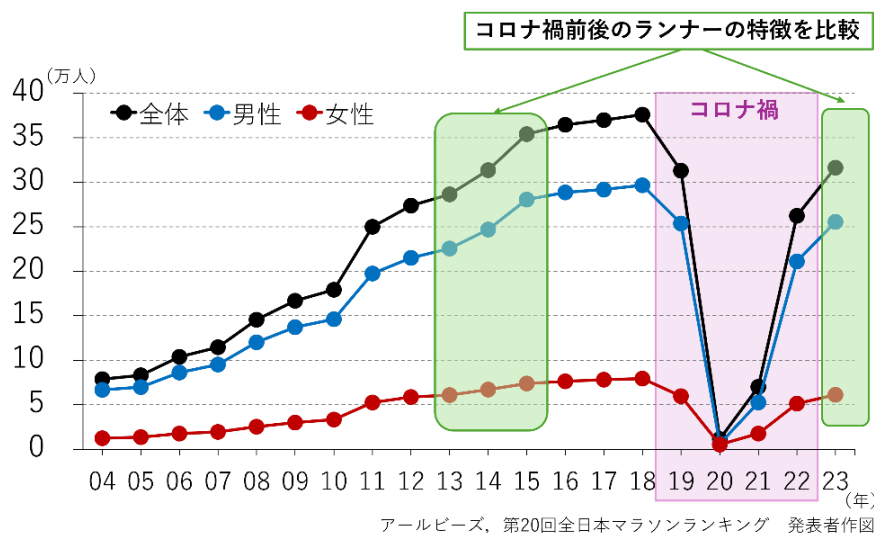


図1. フルマラソン参加者数の年次推移

コロナ禍で

マラソンランナー

に変化??

- ・ 年齢
- ・ 体格
- ・ マラソン経験
- ・ 練習量
- ・ 性差

コロナ禍前後の調査から
比較検討

アピール ポイント

- 💡 コロナ禍前後でシューズやトレーニングアプリなどの変化もあり、それらの影響についても検討予定
- 💡 参加者の特徴に合わせた魅力度の高いマラソン大会の運営に貢献できる可能性

【学会発表】

森寿仁, 久下潤, 前田島正哉: 市民マラソンランナーにおける厚底ランニングシューズの着用が走行ペースに及ぼす影響. 第79回日本体力医学会大会 (滋賀), 2025.9